

1. 久保小学校、長江小学校、土堂小学校、3校の統廃合計画案について三浦議員の質疑。

各校の土砂災害警戒区域・耐震化の状況の確認、二度の転校を伴う計画への懸念について質問に対し、佐藤教育長はこれまでと同じ説明を繰り返したが、計画への批判や懸念が多く出されていることに対し意見を真摯に受けとめ、考慮する姿勢を表明した。

各校の耐震化は可能としたうえで3校の統廃合計画案を出した理由については、佐藤教育長は「久保小学校の敷地が最も安全性が高いというふうな認識で選んだ」と答弁した。

◆8番（三浦徹）

私は、11月5日に教育委員会が議会に説明した久保小学校、長江小学校、土堂小学校、3校の統廃合計画案についてお聞きいたします。

- 1、校舎の耐震化と土砂災害警戒区域は性質の異なるものであると思うが、どう捉えているか。
- 2、土砂災害と地震災害を同列にして危険であると説明するのは無理があり、児童の命にかかる問題だと言うのであれば、校舎の耐震化こそ一刻も早く行う必要があるのではないか。
- 3、統廃合を計画している久保小学校、長江小学校、土堂小学校の3校は、なぜ耐震化ができなかったのか。
- 4、土堂小学校の校舎の耐震化は可能という見解を教育委員会は示されていますが、他の2校、久保、長江についても耐震化は可能か。

二つ目の質問に入らせていただきます。

1、同じような校舎の耐震化についての説明会は、長江小学校や久保小学校ではいつ行われましたか。これは行われてるんですから、これについて見解をお願いします。

2、今年度入学した1年生の保護者に対して、学校選択の説明会の中で、久保、長江、土堂小学校は校舎の耐震化の検討に入っています、統廃合も含めて検討中であることをどうして示せなかったのですか。

3、これまで説明会を行って、保護者から出された意見や要望について、どのように受けとめていますか。

4、今後、育友会から説明会の要望があれば応えていく必要があると思うのですが、どのようにお考えになりますか。

三つ目の質問に入らせていただきます。

三つ目の質問は、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の3校を統廃合した場合の転校に伴う児童や保護者に対する教育的な配慮についてです。

この計画案では転校を二度も行う計画になっているところに大きな問題があります。久保小学校、長江小学校、土堂小学校、3校の統廃合の計画案は、安全対策の一つとして、児童の早期の安全・安心を確保するために2022年4月から最寄りの小学校への応急避難（転校）となっています。転校自体は保護者の転居や転勤に伴って起き得ることであります。悪いとは言いません。しかし、久保小学校、長江小学校、土堂小学校、3校の統廃合計画案では、児童の早期の安全・安心確保のための応急避難としての転校が計画されています。土堂、長江小学校は新校舎ができるまで栗原小学校に転校、久保小学校は山波小学校に転校と計画されています。そして、2024年に新校舎ができればまた転校と、低学年、中学年の児童は2回の転校を余儀なくされてしまいます。転校に伴って、児童は新しい教育環境、学校環境の中で、今までになかったことに気を使いながら新しい環境になれていく必要があります。児童の中にはなかなか新しい環境になじめない子供もいると思います。児童一人一人に違いはあります。過度の負担やストレスを感じる児童もいるのではないかでしょうか。こうした状況の中で、不登校になっ

たり、いじめが発生する可能性も考えられます。これは久保小学校、長江小学校、土堂小学校の児童だけの問題ではありません。緊急避難の受け入れ先の栗原小学校や山波小学校の児童についても同じように考える必要があると考えます。同時に、保護者にも過度の負担がかからないようにすることも考えなければなりません。計画案の中では具体的に示されているものがないのでお聞きいたします。

1、このようなことが子供に起きないように、どのような教育的な配慮を教育委員会としてしていくつもりなのでしょうか。

2、転校に伴う登下校の送迎に対する考え方と、バス通学の補助制度はどのようにしていくのか、詳しくお示しください。

3、各校で違いがある放課後児童クラブや放課後子ども教室はどのようになるのでしょうか。お聞かせください。

多岐にわたる質問ですが、よろしくお願ひいたします。

〔8番三浦 徹議員 質問席へ移動〕

○副議長（宇根本茂） 理事者より答弁を求めます。

佐藤教育長。

○教育長（佐藤昌弘） 日本共産党、三浦議員からの御質問にお答えさせていただきます。

- \*\*校舎の耐震化について:\*\*

- 耐震性が不足している校舎に対して、耐震補強または建て替えにより、地震の揺れに耐えられるようにする。

- \*\*土砂災害の警戒区域と特別警戒区域:\*\*

- 土砂災害から国民の生命を守るため、危険の周知や警戒避難体制整備、新規立地の抑制、既存住宅の移転促進などの対策を推進。

- 土砂災害と地震災害は関連しており、熊本地震のように地震も土砂災害の原因となることに留意。

- \*\*学校ごとの状況:\*\*

- 久保小学校: 耐震化は可能だが、コンクリートの劣化が進み、建て替えが望ましい。

- 長江小学校: 入り口が狭く、工事が困難。減築により教室数確保が難しい。

- 土堂小学校: 耐震化は技術的に可能だが、運営中の耐震補強が困難。敷地の一部が土砂災害防止法の特別警戒区域に指定。

- \*\*移転統合の検討:\*\*

- 長江中学校敷地または久保小学校敷地への移転統合を含めた検討が必要とされている。

- \*\*説明会と保護者への説明:\*\*

- 久保小学校では平成30年1月、長江小学校では本年6月に説明会を実施。

- 土堂小学校では本年2月及び4月に説明会、5月には意見交換会を開催。

- 学校選択制で入学した児童の保護者に対して、昨年度の募集要項に移設や統合の可能性については記載されていたが、十分な説明ができていなかったとの反省が述べられている。

- \*\*教育委員会の方針への対応:\*\*

- 教育委員会が示した方針に対する各校の育友会などからの意見に真摯に受けとめ、考慮する姿勢を表明。

次に、転校に伴う児童や保護者への配慮についてでございます。

- \*\*児童へのサポート体制:\*\*

- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、生徒指導を担当するスクールサポーターを配置し、児童にきめ細かい対応ができるよう検討。

- 学習面でのサポートとして、学習支援講師や授業アシスタントを配置し、教員の業務負担を軽減して子供の様子を把握し指導できるようなサポート体制を整備。

- \*\*転校に伴う送迎対応:\*\*

- 登下校の送迎については、統合事例に基づき通学路や通学経路の変更による負担軽減を考慮。

- 補助制度の創設なども含め、転校に伴う送迎に関する対応を検討。

- \*\*放課後児童クラブ:\*\*

- 新しい学校のクラブへの所属を原則とし、放課後児童クラブについて適切な対応を行う。

- \*\*放課後子ども教室:\*\*

- 放課後子ども教室については今後検討予定。

- \*\*説明と合意形成:\*\*

- 保護者や地域に対して丁寧な説明を行い、関係者の合意形成を図るために最大限努力する考え。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） それぞれの学校でされているんであれば、土堂、久保、長江もそれぞれの学校でそういった警戒区域に対する避難行動であるとか訓練であるとかということで、これは対応できないものなんでしょうか。耐震化は別として、特別警戒区域にあるということに関しての避難の行動についてはどのようにお考えでしょうか。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛）

要は安全でない敷地にある学校について、移れるという状況があるのであれば我々としては、外に出るということを我々としては選択させていただいた。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） 耐震化についても、土堂、長江、久保等、それぞれ考えられたと今お伺いしましたが、本当に耐震化ができない状況にあるというところでいえば、土堂小学校なんかでいいたら、道が狭いのと、それから期間が長くかかるっていうこともお伺いしました。長江小学校も同じような理由で、久保小学校は年数がたつていて、土堂小学校も同じなんですが、耐震化を行っても担保ができないというふうに教育委員会では判断されたようなんですが、これは本当に耐震化ができないっていうところはどなたが、業者に出されてどのような数値が示されて、どのような形で耐震化ができないというふうに判断されたんでしょうか。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛）

耐震化ができるかできないかということであれば、できるということでございます。ただ、先ほどおっしゃっていただいたようないろいろな克服すべき問題が大きいので、そのことについては我々としてはそちらを選ぶよりもほかの方法を選ぶほうがよいという選択をしたということでございます。

以上でございます。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） ほかの方法を選ぶということで、耐震化はできる。しかし、ほかの方法を選ぶという大きな理由としては、何が大きな理由になりましたか。お示しください。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） 敷地の立地の安全性を我々は、そこが、小学校で比較した場合、久保小学校の敷地が最も安全性が高いというふうな認識で、そちらのほうを選んだということでございます。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） 土堂小学校、長江小学校、久保小学校と比べられて、立地の条件が一番よいということで久保小学校になったと言われましたが、それぞれの学校において耐震化の検討を行われてきたと思います。過去のことは余り言いたくないのですが、それぞれの学校で耐震化を計画されたのは、私が調べたところでは、土堂小学校では2003年から耐震化の計画を進められてきたと承知していますが、久保小学校、長江小学校においては何年から耐震化の計画をされていますか。お示しください。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） 手元に資料がございませんので、記憶が定かでないことをここで申し上げるのは何だとは思うんですけど、平成23年度であったというふうに記憶しております。申しわけございません。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） 繰り返しの質問になるんですが、ほかの小学校が次々と耐震化をしていく中で、久保小学校、長江小学校、土堂小学校は耐震化の工事がなされなかった大きな理由はどこにありますか。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） 小学校で残っておる、割と近い区域の3小学校が非常に難しい状況で残っておりました。どこもとりこぼすわけにはいかないという中で、以前も議会で答弁したとおり、土堂小学校のほうの耐震改修が可能かどうかということをまず検討させていただいておりました。その状況ができないという我々の判断になった時点で、長江中学校のほうへの移転、同じ中学校区でございますので、そこをまず優先的に検討をいたしました。が、そこも難しい状況であるという判断をしたので、最終的に近隣の学校である久保小学校、3校の最終的な落ちつき先としてそこを選んだというところで、今現在それを提案させていただいとるということでございます。

以上でございます。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） 随分前から検討はされていましたが、なかなかできないということで現在に至っているというわけなんですが、なぜこの時期に突然のように話が出たのかっていうのが私のほうは不思議でなりません。例えば今年度入学した保護者に対して学校選択のプリントに書いていたということであれば、ほかの保護者に対してもその時点での説明はできなかったものなんでしょうか。いかがでしょうか。

○副議長（宇根本茂） 杉原学校教育部長。

○学校教育部長（杉原妙子） 平成31年度、今年度の学校選択の募集要項のほうには、3校のことにつきましては耐震化を検討中のということで、移転や統合を行う可能性があるという文章はつけておりました。在校生の方に対しての説明会というのは、保護者説明会を開催させて……。

（8番三浦 徹議員「言いましょうか。もう一回」と呼ぶ）

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） 説明が足らなくて申しわけございません。今年度1年生に入った子、だから昨年、学校選択制の説明会の中でどのように説明されたか。その内容について、現在在校中の生徒の保護者に説明することができなかったのかについてお聞きいたします。お願ひいたします。

○副議長（宇根本茂） 杉原学校教育部長。

◎学校教育部長（杉原妙子） 昨年の段階では、まだ現地点の耐震化を検討しておりましたので、統廃合についての御説明をする段階ではございませんでした。今年度に入ってからは、全ての学校ではないんですが、例えば土堂の場合は1年生が入られた段階でもう一度説明をいたしましたが、その段階でも、まだそういう方向性というのをお示しできる状況ではなかったので、2月に説明させていただいたのと同様の内容をさせていただいたということでございます。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） 昨年度の場合は、現1年生が、今入学している1年生が学校選択制で入る時点では、まだ検討がなされていなかったという見解でよろしいでしょうか。

○副議長（宇根本茂） 杉原学校教育部長。

◎学校教育部長（杉原妙子） ですから、**今年度の春までの段階では現地での耐震化を検討しておりました**ので、それ以上の御説明をさしあげることはできなかったということでございます。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） わかりました。現地での耐震化を検討していたと、1年前においては。そういう理解でよろしいですか。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

◎教育総務部長（松尾寛） **昨年の暮れぐらいまでは耐震化ができる可能性について探っておりました。**ことしに入っての説明会では、それは困難であるという御説明をさせていただいておるところでございます。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） **数年にわたって検討されてきたことが、昨年の末までは耐震化を現地で行っていく**っていうことを検討されてきたのが、2月の段階ということであれば約2カ月から3カ月の間で計画が変わったということになるんですが、そういう受けとめでよろしいでしょうか。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

◎教育総務部長（松尾寛） **平成30年度において、新たな工法で耐震化ができるのではないかという知見をもとに検討を進めてまいりました。**その結果が我々の中で判断したのが年末ぐらいということでございます。それを受けて、ここでの耐震化はできないということをお伝えしたのが2月以降の育友会等への説明会という段階を踏んでおります。そういうことでございます。

○副議長（宇根本茂） 8番、三浦議員。

◆8番（三浦徹） この件については続きは文教委員会で岡野長寿のほうが引き続いて行います。

最後に、転校の計画案が、これが実施された場合のことで、一つだけお聞きいたします。

スクールカウンセラーやソーシャルワーカー、それから学習指導員なんかを十分に配置して、新しい学校環境の中で子供たちがしっかりと生活できるようにという説明はあったのですが、この具体的な計画であるとか、それから、バスの通学に関しても具体的な計画、放課後児童クラブや放課後子ども教室も今後検討されるといった内容でしたが、これは具体的な計画を示さないと、保護者や児童や地域の、この案に対する同意は得られないと私は考えます。できるだけ具体的な計画を示して、それから提案されるのが筋ではないかと考えております。残りは文教委員会で岡野長寿のほうが引き継ぎます。御清聴ありがとうございました。（拍手）

◆26番（杉原孝一郎） 期限を切らないのは約束しないに等しいということを頭に入れといてください。行政の意識改革というのは、期限のない約束を今までどこもがやってきた。もうそういう時代ではないということに入ってるんで。ほかの質問があるんで、またそれぞれの機会で問いただしますけれども、下水道整備ができるまでは、この格差、大きな負担差、一方には10億円以上の金をつぎ込み、一方では全額個人負担、しかもその上に都市計画税まで払わされてるという、こんなばかなことがまかり通ってるわけですから、早急に見直しなり、次の予算委員会でもこの件は続きをやりたいと思います。

じゃあ、中途半端になりましたが、次に入ります。

学校問題です。実情を精査することなく、余りに拙速、余りに粗雑な論法で進めている土堂、長江、久保、3小学校の統合については、各議員がこれまでいろいろ質疑がありました。私も異議ありの立場で、土堂小廃校案に絞って質疑を行います。

昨今、尾道市行政の最大の問題点は、重要施策のほとんどが何の説明もなく突然発表されることです。この独善的な手法に、議会はこれまで幾度となく強く是正を求めてきました。その場その場では殊勝な答弁もありますが、一向に改善されず、同じことを繰り返しています。このたびの統合に関しても、我々議員は新聞報道で初めて知りました。日ごろ議会とは車の両輪と言いながら、このあります。議会がチェック機関として機能していないことを見透かしての判断でしょうか。議会や市民がぐうの音も出ないすばらしい施策を出すならともかく、尾道市の場合は、そういう施策で思いつくものがあるでしょうか。そうした中での唐突な統廃合の発表です。

100年を優に超えるまちなか小学校の存廃について、これまでの説明と全く違う計画が、いつ、どのような過程を経て教育委員会で合意されたのか。殊さら安全のためを吹聴されますが、開港850年を誇る旧尾道市内で、土堂小の後背地が崩壊した記録がありますか。その間、南海トラフ、芸予、安芸灘などの地震は何度も起きていますが、私は記録された古文書を見たことはありません。土堂小は千光寺山の南斜面に立地し、風水学的にも最高の条件を備えています。商人のまちだけに、最高の場所を子供たちの教育環境にと提供したものではないでしょうか。土堂小の校歌に「千余の我等なり」という一節があります。1,000人を超える児童が通った学校が、20年ほど前には児童数が67名までに減少し、存立の危機を迎えた時期もありました。その危機的状況を救ったのが校長に就任された陰山先生です。時の亀田市長の英断と陰山校長の熱情が、フェニックスのごとくよみがえらせてきました。そればかりか、全国の教育界にその校名を知らしめ、全国有数のブランド校に育ててくださいました。知恵と工夫がもたらした大功績です。

その全国ブランドの土堂小を存続させる知恵と工夫が、あなた方には思い浮かばないですか。だめな理由ばかり言われるが、できる方法を考えることができないですか。それとも、鶴の一声におびえ切ってるんですか。過去に、だめな理由を並べたあげく、180度変更した例が幾らもあるでしょ。現在こそ中心市街地の寂れとともに児童数は減っていますが、コンパクトシティー化が避けられない尾道市は、土堂小学校区は市内で最も人の流れが多く、定住人口をふやす施策をとらざるを得ない地域です。それが平谷市政下で行われるか、次の市長のもとで行われるか、いずれにせよ日本遺産に隣接する中心市街地を限界集落にするわけにはいかないでしょう。将来を見据えたまちづくりとリンクさせた視点での学校再編を検討しましたか。小学校のない中心市街地なんてあり得ない、まちづくりの心棒を引っ張いてどうするのですか。そんな地域に次代を担う世代が住み着くと思いますか。このエリアは再ブレイクさせなければならない大事な地域であることを置き去りにされています。今やるべきは、全市コンパクトシティー化のグランドデザイン作成を急ぎ、その中で学校編成を考えることです。一呼吸置いてマルチな発想で、地域、PTA、有識者、議会の意見を尊重しながら進めてはいかがです。三幸小学校の統合延期を決断した、よき例があるではないですか。

質問時間の関係で言い尽くせない点も多々ありますが、土堂小廃校がもたらす負の影響を冷静に考えてください。土堂小は個性ある学校づくりの先鞭をつけた全国ブランドの学校です。ブランド力のある尾道市の市名をなくすことに賛成する人が、この中にいるでしょうか。それほどブランド力は一朝一夕にはできない有形無形の尾道市の財産です。かの地は、校舎の配置を変えれば全く危険な場所ではありません。また、近い将来、児童数がふえる要素が高いエリアであることを考慮すべきです。権力を持つ者は市民には謙虚に、皆さんは市民の税金で一生安泰に過ごせています。公儀として感謝の気持ちを忘れてはいけないでしょう。間違っても上から目線で応対しないでいただきたい。そのように心がけているとは思いますが、やや気になるところも見えます。

次の6項目についてお答えください。

過去850年で、土堂小学校裏手が崩壊した記録はあるか。歴史あるまちなか小学校の存廃を、これまでの説明と全く違う計画がどういう過程を得て教育委員会内で決まったのか。同校の廃校を決めた詳しい時期と経緯。土

堂小廃校案に、教育委員も全員協議に参加し、承知したのか。成功例として全国的に名高い個性ある学校を潰すと決めた、その心境。最終的に統廃合を決めたのは、決断したのは誰か。

以上です。

○副議長（宇根本茂） 理事者より答弁を求めます。

佐藤教育長。

○教育長（佐藤昌弘） ただいまの御質問にお答えさせていただきます。

土堂小学校の閉校についてでございます。

まず、過去に土堂小学校裏手が崩壊した記録があるかについてでございますが、明治 44 年に豪雨により小学校周辺の石垣が二度にわたり崩壊した記録がございます。

次に、方針決定に至る経緯についてでございます。これまで、議会の質問にも同じようにお答えさせていただいておりますが、いながらでの耐震化が困難であることがわかった時点で、同一中学校区の長江中学校敷地、または近隣学区の久保小学校敷地への移転統合を検討する必要がある旨を、ことし 4 月に開催しました保護者説明会等において説明してきたところでございます。移転までの児童の安全確保につきましては、当初、現校舎の構造上脆弱な柱等について補強を行うことで、それまでの間、移転をせずに安全に過ごすことができないか、5 月ごろから具体的に検討を進めてまいりました。しかし、結論としましては、国の求める I s 値を確保できないことから、安全性を確実に担保するためには近隣校への緊急避難もやむを得ないものとして、10 月に判断したものでございます。

なお、移転先の学校につきましても、3 校それぞれの学校が独立して運営できるほどの空き教室や転用できる教室はないため、苦渋の選択ではございますが、転校という形での速やかな安全確保を方針としてお示しさせていただいたものでございます。

次に、教育委員への説明についてでございますが、全員参加のもと、説明、協議を行いました。その際、委員からは、保護者同様に転校について危惧する御意見もございましたが、最終的には、子供の安全・安心を早期に確保するためにはやむを得ないということで御理解をいただいております。土堂小学校に限らず、久保小学校、長江小学校も、小学校に総合的な学習の時間が導入されて以来、地域資源を生かした特色ある教育活動が展開され、県内はもとより全国から評価されてきた学校でございます。保護者や地域の皆様の思いを考えると断腸の思いではございますが、児童の安全・安心を早期に確保するための苦渋の決断として、教育長として最終的に判断したものでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

○副議長（宇根本茂） 26 番、杉原議員。

◆26 番（杉原孝一郎） まず、明治 44 年、二度ほど崖が崩れたと。どういう石垣が、どの程度崩れたんですか。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） 土堂小学校の創立 80 年記念誌の中に、「豪雨のため斜面埋立地の東側石垣崩壊する」というふうな記述が載っておるという状況を確認したということだけでございまして、詳細については我々も把握しておるわけではございません。

○副議長（宇根本茂） 26 番、杉原議員。

◆26 番（杉原孝一郎） 東側がどういう状況か御存じですか。明治 44 年と今は。私はあそこの卒業生ですからわかりますよ、最近行ってなくとも。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） 尾道市史によりますと、明治 37 年に現在地に校舎を建設したという記述がございますので、この明治 44 年という記述は現在の位置の話であろうというふうに我々は判断したという、そこまでございます。

以上でございます。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） あの当時はぬかるみで木造ですよ。今、上へコンクリートもきちつと張って、東側でしょ。低いところで。それが子供たちの生命に影響するような崩れかどうかかも、何もわからないわけでしょ。そういう短絡的に、何かあったらこういう記録があるということで精査もしないで、そんなのは幾らでもあるじゃないですか。山波小学校、この間崩れたのに、そこに児童を行かすというんでしょ。もっとひどいじゃないですか。もう一度。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

◎教育総務部長（松尾寛） 事案があるかないかということについてお答えしたものでございます。昨今の気象の状況等を考えれば、後背地の特別警戒区域等の状況からして危険なということは考えざるを得ないというふうに考えております。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） 100年以上前の状態と今ということから考えていただいたら、あほみたいな話ですよ。これはね。

私は、だからその間に、どんな古書を見たって地震でも崩れたというのではないから聞いてるんで。石垣が少々崩れたというんなら、これは尾道市は、この間も2,600カ所、急傾斜が崩れたんでしょう。つまりそれが子供の生命に影響するほどのものがあったんかどうか、そこらの感じ方を教えてください。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

◎教育総務部長（松尾寛） あくまでもあったかどうかについて一生懸命確認をさせていただいたということでございます。で、今の現状の中で、新たな考え方で、特別警戒区域、警戒区域ということが示されている以上、そのことについて、どういう対策というか、それについて対応するかということを考える必要があるというふうに思っております。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） 特別警戒区域は全域ですか、土堂小は。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

◎教育総務部長（松尾寛） 敷地の一部でございますが、後背地の特別警戒区域はかなり大きなものというふうに私どもは認識しております。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） じゃ、後背地が崩れた例はあるんですか。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

◎教育総務部長（松尾寛） そこが崩れたという例は承知しておりませんが、最近の気象状況等を考えれば、あるいは昨年の豪雨災害の状況を考えれば、そういう可能性も否定できないというふうに我々は思っております。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） それは一定の処理をすればいいことと、この前も説明のときにお話ししたように、位置を変えれば済むだけでしょ。

それと、私はもう一つ、ここでは聞いてなかったですが、まちづくり、コンパクトシティー化、あの尾道市の中心市街地を今後どうするつもりで、人はもうどんどん減ればいいのか。ふやすのか。そういう観点から他の部局とも話をしながら、この問題をあなた方は判断しましたか。どうですか。

○副議長（宇根本茂） ちょっと質問の内容をもう少し、質問の意図を明確にお願いします。

26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） 小学校を残すかどうかというのは、あなた方教育委員会だけでもしやつとったら、この地域をどうするのかということが必要でしょ。私がコンパクトシティー化という意味わかりませんか。人口減少していったときに、インフラ整備なんかのことを考えれば、まちはコンパクト化していかざるを得ないわけで

す。ですから、小学校をどうするかという問題も、まちのあり方をどうするのかという中で判断していかないと、ただ危険だ、危険だということ、それを主張しながらやっていっただけじゃ済まんでしょう。その後に、後ろに家が何軒あると思いますか。あなた方が言ったのは、その後ろに住んでる方に、あなたの土地は無価値ですよと言つとるのに等しいんですよ。余り危険を増長することは。ほで、聞いてみりやあ、過去にそういう崩落した例はないと。県が急傾斜を決めたと。それは注意しなさいということでしょ、県は。もしも何かあったらいけんから、大雨が降ったり、そうしたときには事前に避難してくださいよと。誰かも言ってましたが、学校はもう避難するじゃないですか、大雨が降れば。休校にするとか。崩れそうなときに授業するばかはいないでしょうよ。そのことを聞いたんです。それにはまちづくりと一緒にになって、そこのまちをどうするのか、にぎやかなまちをつくるのに小学校がなくていいのか、あったほうがいいのか、そういう議論をしましたかということを聞いたんです。

○副議長（宇根本茂） 暫時休憩します。

午後4時8分 休憩

—————\*

午後4時10分 再開

○副議長（宇根本茂） 休憩前に引き続き会議を開きます。

松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） まちづくり、あるいはコンパクトシティーということを踏まえた協議をしているわけではございません。コンパクトシティーというのは、まちづくりにとっての大きな将来的な課題というか、検討すべきものだと思っておりますが、まずは児童の安全ということを考えたときに、今のような方針を教育委員会として出させていただいたということでございます。

以上でございます。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） 児童の安全と言うけど、先ほど一部分だと言ったわけでしょ。そして、後背地が、県は急傾斜やっとるけど、これまでずれた記録があなた方も知らないという。東はちょっとあったという。現場へ行ってみりやわかる、今崩れそうなものかどうか。これが一つ。そういった中で、まず残すと。先ほど言ったように中心市街地に小学校がないって、まちが活性化すると思われますか。これは教育委員会が答えるんか、こっちが答えるんかわかりませんけども。それを聞きます。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） いずれの地域にも小学校はコミュニティにとって大切な存在であるということは当然に認識しております。しかしながら、児童の安全ということを考えた場合、現在耐震化できていない校舎に児童が通っておるという状況もございます中で、どういう対応が一番よいかということを教育委員会として考えさせていただいたということでございます。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） 私は不安全ではないと言ってんです。一部のところを除いて、そこの急傾斜の何メートルか離して堰をきちっとつくれば、全く問題ないんです。あなた方はいたずらに、子供、児童の安全、安全と言われるけども、それほど強調されるんなら、庁舎より先に耐震工事をやれと言ったときに、ほっぽり投げてこれをやったのは誰ですか。こんな不安全な場所に建てたのは誰ですか。国は液状化するところにはそういうたものはできないと、これは。災害の拠点にはならないと。でも、やつとる。それで、今になって自分たちが方針を決めたら、もう子供の安全のためだ、安全のため、平成23年に耐震工事が始まったんでしょ。8年ほつといて、急に言い出したわけでしょうが。そりやあ、もう一度しっかりとあなた方も見直さなきやだめよ。どこが危ないんですか、あそこの。何があったんですか。ただ口頭で、むしろその山波小のほうが危ないじゃないですか。この前崩れて。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） 教育委員会としても、平成23年度から二次診断、実施設計に取り組んでおりましたが、その時点では可能な工法が見当たらなかったという状況がございました。その後、平成27年から平成28年度にかけまして再度実施設計に取り組んだわけでございますが、このハイパー工法という工法でもなかなか工事が難しいということがございまして、さらに、再度、平成30年度において設計について取り組んだわけでございますが、これについても教室間の壁等の脆弱性の問題等もありまして、仮設校舎を建てた場合は現況の中では大変学校運営が困難であるというふうなこともございましたので、それを断念したことでございます。それと並行して西日本豪雨というふうな状況がございました。そうした中で、土砂災害の危険が本市においても十分に考えられるという状況がございましたので、そのような方向に転換というか、移行させていただいたということでございます。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） あなた方は矛盾だらけなのよ。あの削り地の平らなところが危ない危ないというて言うんでしょ。一方では、千光寺空き家対策というて、急傾斜でもっとひどいところに人を住まわそと努力しよるんです。課が違ったら、やってることはもうでたらめだよね。片一方は危ない、片一方はそこへ、道のないようなところを家を直して、そこへ住め住めと言う。だから、危険というよりも、むしろ安全でしょ。高台にあって。庁舎よりはるかに安全でしょ、今度の。そう思いませんか。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） 確かに高台でありますから津波の心配はないというふうな認識はしております。ただ、後背地については、何度も同じことを申し上げて申しわけないんですが、昨今の天候等の状況を考えれば全く可能性がないわけではないというふうに認識せざるを得ないと考えております。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） そんなこと言ったら、尾道は住むところありやせんじゃないですか。ここは全部埋立地であるし。斜面の、これが売り物にしてるところね。いたずらに危険だ危険だというのは言わないようにならうよ。そして、耐震工事ができないと言ったのは、どこに出したのか、一応それを見せてください。何社に見積もって、何社がだめと言ったのか。ただあなた方は出したらだめだと言われたというだけのことで、私たちは中身が見えない。どうなんですか。

○副議長（宇根本茂） 松尾教育総務部長。

○教育総務部長（松尾寛） 今、土堂小学校の育友会のほうからも、そのような御意見もいただいております。どういう資料が必要かということも含めてお話しさせていただければと思います。

○副議長（宇根本茂） 26番、杉原議員。

◆26番（杉原孝一郎） 今初めて前向きな答弁をもらったけどね。あなた方はここに物を持つって、ああだこうだと言うけども、我々の出すことを常に信用してくれと言うんと一緒で、ほかの業者だったら、ああ、こんなものは簡単にできますと言うところがあるかもわからない。それを土堂小の育友会が求めとんなら、それはそれで、我々議会にもお示しください。そして、そういったのをじっくり見ながら、今後どうしていくか、もう一度冷静になって、ただ、危険だ危険だと言うて、そこに住んでらっしゃる方が何百人っていらっしゃるわけですから。それがどれだけのものを一般市民に不安を与えどるか。自分たちの主張をするために。そこはよく考えて、今後言葉を選んでいってください。

以上です。残念ながら、以上です。（拍手）